

文化財

だより

ふるさと再発見

六地藏が石塔一本に納まった

「石幢」

曾木町、元曾木温泉入口の路傍に「石幢」という古い石造物が立てられています。四角の基石に、六角の石の柱を立て、上にはやや大ぶりな笠を置き、六角の各面上部に六地藏をそれぞれ一体ずつ浮き彫りにしてあります。供養塔であり、六地藏信仰の対象でもありました。

代の末期から立てられるようになり、室町時代に最も普及したといわれます。この時代は、民間信仰も盛んになって、地藏・六地藏も多くつくられました。

東濃地方では、瑞浪市・恵那市などに残っていますが、古い鎌倉・室町時代のもものは全くなく、江戸時代の早い時期以降のものが多くようです。曾木の石幢は、刻銘によれば寛永二年（一六二五）七月二十四日建立となっています。

石幢の「幢」は旗の意味で、布製の旗を組み合わせて六角にし、寺院の飾りにしたものを石造りにしたところから、石幢が生まれました。もともと古い中国で盛んにつくられたものです。日本では平安時

市内には、このほか天明元年（一七八一）と刻銘のある鶴里の石幢があります。これは、台石を二段に積み、その上に基石を据えて六角の柱を立て、各面の上部には六地藏を浮き彫りにし、傘・宝珠を置いたものです。鶴里町西ヶ洞墓地にあります。



は、台石を二段に積み、その上に基石を据えて六角の柱を立て、各面の上部には六地藏を浮き彫りにし、傘・宝珠を置いたものです。鶴里町西ヶ洞墓地にあります。

教育夢発信

駄知小学校

「思いやりの心を育てる 道徳教育」

駄知小学校では、本年度「しつとりとしなやかに」行動する子どもの育成を目指して、道徳教育・人権教育に力を入れ、道徳的心情や判断力を身に付けた子どもに育てたいと願って取り組んでいます。

一、道徳の授業の充実

資料を確実に理解する

資料の中の主人公、登場人物の関係や場面を十分理解させる。

一部の子の授業にしない

子どもの発するキーワードを学級に広げ、学級全体で考える。

資料から学んだ価値を整理する

価値は鏡である。自分を振り返る場では、どんな鏡に自分を照らし出すかはつきりとさせる。

以上の三つの視点を意識して、授業に取り組んでいます。



二、日常における道徳性の育成

子どもたちの日常生活の中で、他を思いやる心、自分を律する心は、ささいな行動の端々に現れてきます。

本年度は生活指導の重点に「あいさつ」「トイレスリッパ」「廊下歩行」の三つを取り上げ、月目標を設定し、年間を通じて繰り返し指導しています。ごく自然にあいさつのできる子、後に使う子のことを考えてスリッパをそろえる子、仲間のことを考え、静かに右側を歩行する子を目指し、毎週一学年ごとに月目標に対する具体的な指導と子どもたちの取り組みを交流しています。

こうした指導により、心を落ち着け、しつとりとしなやかに行動する子を目指しています。

